

各 位

2019年12月17日

合同部会 趣意書

我々の研究成果のフィードバック先として、学界と実務界がある。学術論文の最後には、「Academic Implication」と「Managerial Implication」の両方を示す。前者は国際ビジネスに関する研究知の積み上げを目指し、後者は国際ビジネスの発展に貢献するような研究成果を示すことを目指している。このことは、国内外の学術誌を問わずに要求される。国際ビジネス研究学会においても、研究者だけでなく実務家も所属し、国際ビジネスに関する諸問題について議論を重ねている。

本部会では、「Managerial Implication」に着目する。我々の研究成果は、実務の発展にどのように貢献できるのか。研究と実務のギャップはどこにあるのか（研究知の関心と実務的要請のギャップ、論の展開の違いなど）。こうした問題意識をもとに、実務経験研究者による研究報告、ならびに実務経験研究者による研究と実務に関するパネルディスカッションを行う。パネルディスカッションでは、「実務経験者による多国籍企業研究・国際ビジネス研究の課題」をテーマに、実務経験者ならではの問題意識の醸成方法や学界への要望などを討論する。

パネルディスカッションのエッセンスは、過去の関東部会（2019年7月）とつながるものである。同部会の議題は「研究すべきテーマの発見、深耕、そして世界との対話」であり、（社会的・実務的に意義のある）研究テーマの発見、そうした研究の進め方、実務との対話方法について議論した。「実務との対話」を一層深掘りすることが、パネルディスカッションの目的ともいえる。

日程 2020年1月25日（土）

日時 14:30-17:30

場所 早稲田大学3号館305教室

国際ビジネス研究学会関東部会長 新宅純二郎

多国籍企業学会東部部会長 安田賢憲